

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200080		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホームきら		
所在地	愛知県西尾市吉良町吉田山中6番1		
自己評価作成日	平成25年11月22日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kanji=true&JiyosyoCd=2393200080-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は木をふんだんに使用しており、廊下、リビングには畳を使用しています。ぬくもりや温かみを感じられる雰囲気です。リビングに集まりたくなるような、くつろぎたくなる空間を大切にしています。グループホームの目の前にはスーパーもあり、歩いて買い物に行け、居室の窓からもどかな風景が眺める事が出来き四季を感じられ、また自然があふれています。地域資源をはじめ、地域の行事へも(お祭り、盆踊り等)積極的に参加するようにしています。毎週水曜日には図書館へ読み聞かせへ行き幼少期の子供とのふれあいの場ともなり、また小学校の運動会の見学、近くの保育園児の訪問、「きらまつり」といった市の行事に、今年も利用者様が手作りクッキーを出店。近隣の自動車屋さんとも顔なじみになっており、時にイベントの協力をして頂けてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、住み替えたホームの暮らしを穏やかに過ごし、家族は、おじいちゃんやおばあちゃんの居る実家に帰省するようにホームを訪ねている。日常生活は利用者主導で時間が流れ、職員が利用者の生活を見守る支援は、スタート時からぶれることのない方針となっており、一日の大半を占める「日常」の中の家事は、利用者の普通の生活の基盤となっていることがよく理解できる。今年度は、昨年度の目標達成計画に基づいた改善の実行を推進し、ますますの利用者本位の生活支援実現に向け、職員間の意識共有とモチベーションの維持を図っている。地域の小学校や保育園との交流の実現、図書館等の地域資源を活用した外出等、利用者を感じる職員のひらめきは実を結んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日も良い日だった」と思って頂けるよう、お気持ちを伺いながら笑顔で接している。また、その人らしい生活をして頂けるように取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、利用者や職員のみならず家族などの来訪者に広く公表している。管理者は職員のモチベーションの維持と向上に心がけ、理念を実践に反映すべく職員の話し合いを重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物やゴミ捨て、散歩等交流に努め地域の行事に出来るだけ参加に努めている。またご近所様の自動車屋さんにはイベント事に協力して下さる。	地域の祭りや行事参加、近隣の自動車修理販売店との継続的な交流、散歩や外出、買い物時の地域住民との挨拶等、利用者とホームの存在は地域の知るところとなっている。本年は新たに保育園の園児との相互交流と小学校交流の輪を広げている。	一歩ずつの進捗が見られ、来年度にも期待が持てる。実習受入や学習体験受入等、ホームを社会資源とする貢献が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	図書館利用時に認知症についてのお話をさせて頂くことはある。買い物や行事参加はしているが、地域の人々に生かしているとはまだはいかない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催。活動報告や運営に関しての話し合いを行い、また防災については意見や助言がでる。毎回の議事録にてスタッフ各自確認している。	年6回開催の会議は、利用者や家族、行政、地域の民生委員や馴染みの米屋店主等の参加する賑やかな会議である。ホーム運営の様子をスライドを利用し「見える」形で報告している。会議の出席依頼を、文書と共に口頭で実施することにより、会議出席率向上を工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市より介護相談員来所が月に1回あり利用者の相談員の下さる。ケアやサービスなどの協力して頂ける様お話をしている。	運営会議への市の長寿課と地域包括支援センターの参加で、最新の情報提供を得ている。介護相談員の毎月の来訪、市の担当部署との相談・報告を通じた連携等、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外の施錠はなく、ベッド柵の使用もしていません。静止や拘束するような言葉かけにも注意している。	ホーム内研修を実施し、職員周知で拘束をしない支援を実践している。一切の拘束を行わない方針を正しく理解し、適切に支援に反映している。利用者の安全確保と拘束の考え方についても、事例を交えた検討を行っている。言葉かけ、プライバシーの確保等、職員の意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会等行く機会があれば参加している。ご利用者の様子、言動にも注意をはらい、入浴時にも皮膚の観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会があったが実際に活用されている方がいないので分からない。活用、支援までには至らない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項説明はオリエンテーション時にスタッフへは説明しているが実際に行っているのは管理者のみである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の実施。会議の際イベントやここでの暮らしの報告し、その際に意見や要望を聞いたりしている。	家族の意見を聴取できるように、毎月ホームの便りに利用者の様子を写真入りで紹介したり、居室に写真を掲示し、ホームでの暮らしを理解してもらえるように情報提供している。運営推進会議、面会時等、意見表出の機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回自己申告書の実施。要望を記入できるようにになっている。 人事考課が年2回あり、管理者と面談を行っている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見交換の機会としている。また年2回の管理者面談を設け、職員と個別に話し合う機会としている。運営に関する意見や提案、利用者支援に関する意見や提案等、管理者を交えた話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給。年2回の賞与制度がある。 研修会勉強会の参加に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加へあっせんして外部研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の他グループホームの見学会の参加をし、交流をはかる事ができた。 外部の勉強会に参加したり、研修に行くスタッフは交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に家族、本人の要望を伺っている。サービス担当者会議の際にはご家族、ご利用者に意向や困っている事等伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時になるべく話を伺うようにし、困っている事はないか、何かあれば改善出来るように努めている。 常に報告を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子をカルテに記入し、困っている事があれば申し送りしたり、ミーティングで話し合い、支援できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を行って頂き、暮らしの情報や知恵を教わる場面もある。 共同生活ではなく、人生の大先輩であるので尊重している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子をお伝えするようにしている。何かあれば電話やメールでのやり取りをしている。 ご家族の関係を大切にしながら一緒に支援して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会、知人の面会、馴染みの人が訪れてくれている。馴染みの美容院へ行かれる方はご家族へお願いしている。利用者の馴染みの場所へは以前に比べて行けてないと思う。	手芸の好きな利用者が、機織りの道具を持ち込み、完成した織物を地域の祭りに出品したり、月一回のフラワーアレンジメントを出張していただけるお花屋さんに来ていただき、参加した方は作品を居室に飾ったり、趣味の継続支援の事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い人はホワイトボードを使用し、コミュニケーションを取っている。 孤立されている方には利用者に協力してもらい関わりをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されたが、法人内の別の所に入居された。ご家族からも連絡を頂けた。同法人なので面会に行きたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームで出来る範囲で行っている。 本人の行動や発言を記録し、ミーティングで話し合い、意向や希望に添えるように努めている。	職員は利用者を尊び、馴染みの中にも礼儀を重んじた接遇に努めている。3か月に一度のサービス担当者会議では、利用者の希望や困っていること、どうして行きたいかを確認し、家族が協力できることを含め、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の資料に目を通したり、ご家族様からお話を伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの作成し出来事、支援が必要などを把握し過ごし方が分かるようにしている。 生活歴を活かした支援が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のミーティング、カンファレンス、おむね3ヶ月に1回、ご家族参加のサービス担当者会議等話し合い、介護計画を作成に努めている。	毎月、モニタリングとケアカンファレンスを実施している。3ヶ月を基本にサービス担当者会議を開催し、家族、管理者、計画作成担当者、担当職員が参加して話し合いを行っている。その利用者に必要なかを考えた介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かく記入している。 記録の確認、申し送り、ミーティングで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により家族と話あったり、サービス担当者会議で支援の仕方について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として図書館へ読み聞かせへ参加したり、お祭り、盆踊り大会へ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療前には情報を用紙で伝達して主治医へ伝わるようにしている。 訪問診療の方、以前からのご本人様のかかりつけ医とご家族ご本人希望によって受診している	以前からの主治医をかかりつけ医とする場合は、通院受診は家族の同行とし、利用者の情報はホームの作成する「伝達用紙」託し医師に伝えている。また、受診結果は家族に確認し把握している。ホームの提供する支援としては、協力医の訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在でも電話や申し送りでの報告、相談はしている。 急をよする時は電話し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者との連絡のやり取り、ご様子の状態の確認を主に管理者が行っている。 現在、地域の病院との医療連携に努め、会議に出席(管理者、看護師)参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族、ご本人様の希望を伺い、事前指定書をとっている。サービス担当者会議に一部の方は事前指定書の見直し確認をしている。 今現在、ケースはない。	医療を伴わない看取りの受入れの指針を、利用者、家族に説明している。ホーム対応が難しい場合は、家族、医療関係者を交え話し合い、医療機関を含めた適切な他施設移行を支援している。家族の意向の尊重、ホームの支援体制を説明し、家族との信頼関係の中で、本人にとって最善の方法を選択できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時のマニュアルは理解し応急手当の勉強会には参加しているが、実践的は難しい。 研修会、フローチャート、応急手当の手順はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、津波の訓練、炊き出し訓練の実施をしている。スタッフが全員が参加できていないので参加した人、していない人という。教育訓練として起震車体験をした。	「体で覚える」を目指し隔月の訓練を目標としている。津波を想定した訓練は実際に避難場所である小学校に利用者や移動し、訓練後は反省会を実施している。飲食料の備蓄、有事にホームに泊まる職員を想定し、職員の着替えを準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇自己チェックや毎月、目標を掲げている。出来るだけ敬語を使っている。トイレ等、肌が出ない様にひざ掛けを使用している。	職員は利用者に対し、失礼のないように丁寧に接している。現在の利用者は自立度の高いことから、特に自尊心とプライバシーに配慮し、何もかも世話を焼くような支援にならないように、自己行動の出るような声掛けを工夫している。	利用者に対する接遇やプライバシーの考え方を、職員の意識統一を目的に、文書化することも一考であると思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で選べるような声かけや物をだし、選んで頂いている。本人の自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴したい時間を伺ったりしている。希望に添えるようにスタッフで話し合い支援できるように努めている。場合によってはスタッフの都合の時間の入浴になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなど選んで頂くようにし、毎日着替えて頂くようにしている。毛染めをする方もみえるで、法人内の床屋へ出掛けたり、行きつけの美容院へご家族と出かけている。入浴時うぶ毛そり、爪の確認をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分の箸、茶碗、湯のみ等使用している。献立決め、調理、配膳、下膳と利用者で行っている。調理方法を伺っている。時々おやつも一緒に作っている。	できることの徹底支援の顕著たる場面であり、全利用者が、汁をお碗に注いだり、全員の赤飯を要領よく茶碗に取り分けていた。下膳、後片付けも利用者主導で行い、まさに共同生活の一場面を体感できた。買い物・準備・片づけを、職員の手助けでこなしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が出来ない方へはこまめにジュースの提供をしたり、OS1を手作りし提供している。毎食の食事量のチェックをしている。野菜、肉、魚、豆腐等バランスを考え、必ず汁物を付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っているが、見守り介助が必要な方は行えていないが、自立の方の口腔内の確認まで行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく食事の前後に案内が必要な方は、立ち上がった時に案内し、トイレの排泄が出来るようにお誘いしている。パンツの上げ下げや陰部の拭き取りはなるべくご自分で行って頂くようにしている。	利用者の能力を見極め、必要以上の支援は行わず、自立した排泄の継続を支援している。約半数の利用者の自立排泄を実現しており、適切な声かけが、紙パンツ内の失禁が減少、状態改善につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にOS1水分提供している。 朝、昼に麦+白米混ぜて提供している。 便秘の方はヨーグルトの提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間に合わせて入浴して頂いている。午前に入る人もいれば、夕方に入る方もいる。同性介助を希望される方には対応している。	毎日の入浴を提供し、個別に1~2日おきの入浴を基本にして、利用者の希望に柔軟に対応している。入浴は個浴とし、プライバシーにも配慮している。入浴拒否の場合は、時間を置いたり、日を変えて、利用者の気持ちに沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の意志で自由に居室で休んで頂き、体調を伺い静養を勧めている。パジャマで休んで頂き、毎日洗濯をしている。布団を整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の結果、薬情書、24時間シートに確認している。内服の処方の変更があれば必ず申し送りされている。 副作用の理解まで出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お祭りには箱寿司作りをしたり、誕生日には何が食べたいか伺ったりし誕生日外出を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるように買い物の調整をしたりしているが、時間や人数に制約もあり、地域、家族とまだまだ密とはいえない。ご家族と出かけられる事もある。	日課の散歩、ゴミ捨てや買い物、行事外出等、外へ出る機会を多く持ち、利用者の気分転換を図っている。誕生日の個別支援では、利用者のリクエストに応え映画鑑賞や水族館に出かけている。日当たりの良い廊下の長いすに座る日向ぼっこや外気浴を、利用者の気分転換の機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望したものが買えるように日程調整したり、会計時には本人にお金の支払いをして頂いている。また、お小遣の管理はグループホームで行っている。お小遣いの報告を毎月している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があればかけて頂いている。携帯電話を所持してみえる方もいる。手紙が来る方もいるが、返事を出して頂く支援は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗濯物、布団を外へ干すようにしている。清潔、換気、温度差等に努め、植物を植え替えたり置物を置いたり季節感を大切にしている。	新築の日本建築風の建物で、居間や廊下の大部分を畳敷きで整備し、温もりのある居心地の良い空間を演出している。また、ホーム内各所に空調を設置し、温度差にも配慮が感じられる。掃除は利用者と職員が一緒に行い、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場所は廊下の長椅子があり、日向ぼっこされている。居間のソファやリビングなどでゆっくり過ごせるように空間作りをしている。お一人で何かされて居る時には無理にお誘いしない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように工夫している。使い慣れた馴染みのあるものをご持参頂けるようにご家族へお話している。居室にお花や写真が飾られている。またご自分で居室の施錠をされている。	居室にも間接照明を導入し、落ち着ける空間を演出している。入居時に家族の協力を仰ぎ、利用者の馴染みの物品を持ち込んでもらっている。居室で趣味の機織りを行う利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止に努めたり、どこに何があるかを表示したり説明し使用して頂いている。洗濯、掃除、調理等出来る事は利用者に行ってもらっている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	本年度は地域交流、社会資源の活用しつながらりや関わりを目標とし、近隣の保育園との交流に図れたり、図書館へ毎週行く事ができた。もう一歩踏み込んだ交流を図れるようにしたい。	定期的な交流が図れるようにし、地域行事へも積極的に参加をしていきます。	①近隣の保育園や小学校との交流を定期的に行えるようにしていきます。 ②地域資源の活用として近隣の図書館へ行き、読み聞かせに参加し乳幼児との関わりする。 ③地域の行事へも積極的に参加し顔なじみになって頂く。	12ヶ月
2	36	プライバシーという言葉の奥深く理解までは出来ていないと思い、利用者にとって入って欲しくない領域を含め今一度、プライバシーについて理解を深めて行く必要があると考えられる。	プライバシーの理解を正しくし、意識の統一をする	①介助の部分のプライバシーの再確認 ②プライバシーについて再度ホーム内で勉強会の実施	6ヶ月
3	33	グループホームでの見取りが行えるとしているが、まだ開設して2年目ということもありケースがない。その為まだまだ先というスタッフの認識の部分もある為、3年目に入る事で、今一度看取りについて話し合う必要もあると考えられる。	看取り、終末期の有り方について再認識をする。	①看取りとは何か？の勉強会の実施 ②法人の事前指定書についての理解 ③緊急時対応のマニュアルの再周知	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。